

「共生を目指すボランティア」で感じて欲しいこと キーワードは「多様性」

「共生をめざすボランティア」を昨年度担当した大野です。今年度の活動のオリエンテーションを行うにあたり、最初に皆さんに伝えておきたいことがあります。

新宿山吹高校の共ボラの活動には実に様々なものがあります。昨年の例をいくつか挙げます。

- 様々な団体の方の講演会、ワークショップ
- 車椅子体験、アイマスク体験と障がいをお持ちの方との対話
- 環境に優しい学校を考えるワークショップ
- 聴覚障がいの方との交流と手話体験
- 知的障がいの方の施設、肢体不自由の方の施設の訪問と交流
- 幼稚園、小学校の運動会のお手伝い
- ボランティアイベントの運営補助
- 文化祭の運営

これ以外に、自分たちで見つけてきた活動先でのボランティア活動を行った生徒も多数います。一見、様々な内容が雑多に盛り込まれていて、一貫性がないようにも思えますが、全ての活動に通じるキーワードがあります。それが「多様性」です。現在、学校教育や様々なNPOはもちろん、民間企業においても「多様性」が重視されています。なぜ「多様性」が現代社会のキーワードとして重要なのでしょうか。

世の中には実に様々な人がいます。つまり「多様性」が豊かです。生物学的に言えば、遺伝要因（先天的な要因）と環境要因（後天的なもの）が複雑にからみあって、その人自身の「個性」が生み出されています。いわゆる「障がい」を考えると、自分は「健常者」であって、「障がい者」とは全く違うと思ってしまうますが、どんな人でも遺伝要因、環境要因が異なるために、人と異なっていますし、「正常」と「異常」というものに明確な境界はありません。これは情緒的な意味だけではなく、生物学的な意味においても、です。

人間関係の中で、他人と衝突したり、うまくコミュニケーションがとれずに嫌になってしまうことがあります。でも、「自分も多様性の中の一つの可能性、あなたも多様性の中の一つの可能性、そこに優劣はなく、あるのは一人一人違うということだけ」ということを理解していれば、息苦しい生き方ではなく、自分も他人も楽に、何より幸せに生きることができるように思います。

多様性に気付き、受容し、活用する

それでは、そのためにどのようなことが必要でしょうか。「多様性」を考える上で、以下の3つの段階があるのではないかと思います。

①多様性への気付き ②多様性の受容 ③多様性の活用

①は、まず多様性に触れることによって、「多様性がある」ということに気付くことです。さらに、その多様性を排除するのではなく積極的に受け入れるような思考をもてることが②の段階です。そして、ただ受け入れるのではなく、それぞれの人々の多様性をどのようにしたら一番生かせるかを考え、個性を活用しながら皆が幸せを感じられるように考え行動できるのが③の段階です。

学校教育だけでなく、民間企業でも「多様性」が重視されているのは、主にこの③のような態度を身につけることの重要性からだと思います。つまり、周囲の人々を「自分と違う、合わない」という理由だけで排除するのではなく、あらゆることを「多様性」として認め、受け入れ、そして活用しながら全体としてよいものを作っていくという発想です。ただし、このようなことを実現するのは頭ではわかっていてもなかなか困難です。そこで一番よい方法が、「経験」です。いくら知識だけを詰め込んでも、最終的に自分が納得し、共感できるためには、経験が必要であると思います。

新宿山吹高校の共ボラには、「多様性」を感じ、その良さを感じることができるような体験活動が多くあります。それらに参加することによって、多様性に気付くことができるでしょう。高校生活そしてその先の人生も含めて、多様性を感じるための一番よい方法がこの共ボラへの参加だと個人的には思っています。

「幸せ」とは何か

「多様性」に続き、もう一つのキーワードである「幸せ」についても少し書かせてもらいます。人は皆、「生きたいように生き、幸せを感じる」ために生きているのではないのでしょうか。でも、時に生きたいように生きられなかったり、自分と他者の「幸せ」が衝突して妥協を迫られたりすることもあると思います。そのときに、ヒントになるのが、以下の二人の言葉です。

幸せを手に入れるんじゃない。 幸せを感じることをできる心を手に入れるんじゃ。

(甲本ヒロト)

しあわせはいつもじぶんのこころがきめる

(相田みつを)

僕はこれらを読み解く考え方として「幸せの感受性」という表現をしています。幸せは決まった形があるわけではありません。経済的に豊かになっても、必ずしも幸せを感じることができません。一方では経済的に恵まれなくとも幸せを感じている人もいます。つまり、幸せは無条件にそこにある絶対的なものではなく、それを感じることができる心が生み出すものなのだと思います。ならば、できることなら人生で出会うどんな場面でも小さな幸せを遺感じられる力があれば「生きたいように生き、幸せを感じる」ことが容易になると思います。

共ボラの活動は「幸せを感じる心」につながる

日本理化学工業という会社は、全従業員 74 人中 55 人が知的障がい者という企業です。最初は「かわいそうだから」といって雇用をしたのがきっかけだったそうですが、しばらくして社長はあるお坊さんからこんなことを言われます。

人間の究極の幸せは、愛されること、褒められること、役に立つこと、人に必要とされることの4つです。愛されること以外は、働いてこそ得られます

この話に触れたとき、そうだなあと実感しました。仕事が人生の全てではないにしろ、仕事を通じて幸せを感じることは大きいと思います。障がいがあると仕事も限られるし、そこから得られるものも少ないと考えるのではなく、障がいの有無などには関係なく、いい仕事と出会い、そこでの自己実現を通じてより多くの「幸せ」を感じられたら、こんなにうれしいことはないと思います。皆さんは、日々の高校生活の中で、この4つの幸せのうち、いくつかを感じることができるでしょうか。なかなか難しい間だと思います。でも、共ボラでは、これら全てを感じられるかもしれません。

普段高校生となかなか接する機会のない方々と皆さんがまっさらな気持ちで対話するだけで、その方たちに素晴らしい時間を提供できるかもしれません。そして、様々な活動で必要とされ、褒めてもらうこともあるでしょう。誰かにために何かをしているようで、実は自分自身が幸福感を感じることに繋がっているということがとても重要です。義務感のみで苦痛の中行う活動は、お互いを幸せにしません。まっさらな気持ちで、素直に人々と向き合い活動する、ただそれだけでお互いが幸せを感じることができます。共ボラを通じて、「幸せを感じる心」が芽生え、膨らんでいくのだと思います。

様々な生き方・考え方に触れることのできる貴重な機会

新宿山吹高校の共ボラは、決まった価値観や道徳観の押し付けが目的ではありません。様々な多様性に触れて欲しい。そして、そこでそれぞれに様々な気付きや学びが得られればそれ

でいいのです。願わくば、そこで皆さん自身にも何らかの「幸せ」を感じてもらえれば本望です。この授業に協力をいただいている皆さんは、本当に魅力的な方々ばかりです。僕自身も昨年様々な方とお話させていただく中で、多くの気づきを得られました。共ボラの仕事を通じて世界を広げてもらえまし、生徒の皆さんの笑顔と様々な活躍、それを喜んで下さっている方々の笑顔を見て、とても幸せな気持ちになりました。

高校生活でやりたいことは、山ほどあると思います。これからの高校生活に向けての期待とそれと同じかそれ以上の不安もあるかもしれません。でも、これからの一年間という時間の中で、少しの時間でも共ボラに使ってもらえれば、これからの人生の何らかの糧になると思います。それに、卒業に必要な単位も取得できます。「面倒くさい」と言わずに、一度何かの活動に是非参加してみてください。そして、様々な方の生き方を見て下さい。その方の生き方、考え方、人生の軸、そんなことに思いを馳せて交流すれば多くを得られることと思います。

最後に、金子みすずさんの有名な詩を紹介して結びとさせていただきます。多くの皆さんの活動への参加を待っています。

ボランティア委員会 大野智久

「私と小鳥と鈴と」 金子みすず

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私
みんなちがってみんないい。